

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500057		
法人名	株式会社鈴木総合サービス		
事業所名	グループホーム 平里の家(さくらユニット)		
所在地	山越郡長万部町字平里43番地23号		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町村受理日	平成24年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500057&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様がその人らしい尊厳のある生活が実現出来る様に、又その人に寄り添うお世話が出来れば良いかと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、JR長万部駅より車で10分ほど走ると、牧草地と原野に囲まれた自然豊かな中にあり、近くに介護老人福祉施設「慈恵園」がある。運営者は「認知症高齢者が住み慣れた地域で、住民の方々と交流しながら、自分らしく生活ができること」を長年にわたり模索していた。5年前、株式会社鈴木総合サービスを立ち上げると同時に当事業所を設立し、高齢者福祉に携わることとなり日々、研鑽をかさねている。管理者と職員は利用者の尊厳を守り、安心と安全で楽しく穏やかな生活を支援している。食事の盛り付けや畑づくりなど出来るだけ利用者の参加・協力を促し、収穫したニンジンやジャガイモは旬の野菜として食卓を飾る。利用者は職員の寸劇を見て笑い、慰問の民謡ショーを楽しみ、職員と家族に見守られながら、地域の一員としてその人らしい生活を日々送っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常において、理念の主旨を理解し、現場での実践につなげている。	「安全と尊厳をもった生活」を根幹として、「専門的知識と技術を日々学び」「利用者の能力を引き出す」という理念を事業所内に提示し、職員全員でミーティングの時に唱和し、ケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へ行事の案内をして参加していただき、交流を深めている。	事業所の夏祭りや新年会に町内から参加がある。高校生の職場体験学習やヘルパー実習生の受け入れ、園児の遊戯や民謡ボランティアが訪問するなど地域と相互の交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に見学等を受け入れてその際には説明して、理解をしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進委員会議を行い出席者からの意見、提案等を参考にしサービス向上に活かしている。	町職員・町会議員・町内会・民生委員・家族などが参加し、2ヶ月ごとに開催。町役場からの伝達事項と事業所側の運営状況や日常生活の様子などが報告され、その後質疑応答がなされてサービス向上に活かしている。	運営推進会議の家族への案内通知は、町内の家族に限定しているが、広く理解と支援を得られるよう働きかける意味からも、すべての家族に通知することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町とは、必要に応じて連絡を取り合うなど、スムーズな連携体制を行っている。	町から推進会議に出席し報告・相談をしている。介護保険改正について情報をもらい説明を受け、またケースワーカーの訪問があるなど、連携・協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、より深く理解や知識を得るため、外部研修に積極的に参加し且つ、内部研修し、職員全員に意識付けをしている。	身体拘束の外部研修会に参加した職員が、報告・復命を兼ねて勉強会を実施している。職員は禁止の対象となる具体的な行為について充分理解しており、利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で職員全体が知識をもって虐待防止に努める。		

グループホーム平里の家(さくらユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い職員全員が制度について学ぶ機会を持ち今後活かせる様努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族を面談、施設見学を行い又、説明も充分に行い、理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会議やご家族より頂いたご意見や要望は、改善出来る様に会議等で話し合い取り組んでいる。	家族の意見・要望は面会の時や運営推進会議の中などで聴いている。出された課題は職員全員で検討し、その結果を家族の訪問時や「ふらっとほーむ」で報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で職員の意見や提案を聞き反映している、又日々の業務中にも気づいた事があればすぐに意見を言える様な環境を作っている。	職員の意見や提案は、毎月の全体会議の中で、話し合われ、管理者は職員の声に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の面では個々に能力給となっており資格取得等、行事やレクなど入居者の生活水準を上げる様に心をもって働ける環境を作れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行い職員のスキルアップに努めている、又外部研修にも積極的に参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて情報の交換や他の施設見学等をしたり研修に参加している。		

グループホーム平里の家(さくらユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っている事や要望等を聞き、それを取り入れられるような環境を作り、安心して生活してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況や思い、要望及び入居後の不安や疑問を伺い、職員間の共有情報としている。又日常の様子をご家族へ報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の不安や希望を伺い、必要且つより良い支援を行う様取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はしてもらい、職員が知らない事があれば知識を持っている入居者様に教えて貰える様な環境作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に状況報告の手紙や行事の写真等を送り本人とご家族の関係を大切に出来ようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が慣れ親しんだ場への参加や他施設に入居されているご家族の面会など積極的に支援している。	知人や友人からの電話の取り継ぎ、利用者が出す便りの代筆をしている。他施設に入居している家族との面会の送迎支援や自宅近所の方の訪問を快く受け入れるなど、関係の継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話を大切にし、必要に応じて柔軟な関係が保てるように職員が心配りをしている。		

グループホーム平里の家(さくらユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も解らないことがあれば聞けるような環境を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や言葉から希望や意向を汲み取るよう努力している。又毎月の職員会議では検討、共有している。	日々の会話の中から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。それが困難な場合は家族から情報を得たり、表情や動作の観察によって推察して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係機関などから情報を得ている 又、ご本人の会話の中からもこれまでの暮らし方を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状態や病状を観察し詳しく記録に残し職員同士で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中で思いや意見を伺い必要なニーズを見つけ意見交換をし介護計画を作成している。	担当者が本人と家族の意向を聴き、ユニット会議で本人がよりよく暮らすための課題やケアについて、職員間で意見を出し合い、モニタリングをして現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の最後にケアプランに沿って行っていたかを評価して記録に残し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は行っていませんが情報提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方々に理解していただけるよう情報を提供し各関係機関ともその都度連絡を取っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を伺い、町内の病院や専門医療との連携を図り、受診、往診を決定している。	看護師の職員が受診に同行して、医療機関と情報を交換したり日常的に健康管理に携わっている。隣町に住む従来のかかりつけ医が、一人の利用者のために今も往診に訪れている。	

グループホーム平里の家(さくらユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づきによりその都度看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携に努め定期的に面会に行き、入居者様の不安を取り除くよう心のケアを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人とご家族と話し合い、当施設で出来ることを十分説明し良い方法を支援している。	重度化や看取りの対応について事業所として方針を明確にしており、契約時と必要時に家族に説明し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修において緊急時のマニュアル確認を職員全員で行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。災害時には全職員が対応出来るよう避難誘導の方法を内部研修で行っている。	年2回地域住民が参加して、日中と夜間を想定した火災・避難訓練を実施し、終了後に消防職員の指導をうける。町内会との間で緊急連絡網を作成し協力体制を築いている。オール電化にして火元をなくす予防策もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し自尊心を傷つけない様に、その時々状況に応じた言葉かけや対応をしている。	個人情報に関わる使用同意書に家族から署名・捺印をもらっている。職員は利用者をひとりの個人として敬意を払い、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の想いや希望を伺い自己決定が出来る様対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、ご本人の気持ちを尊重し個性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を伺い、スタッフと話し合いをし支援している。		

グループホーム平里の家(さくらユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様と同じテーブルで食事をし雰囲気作りを大切にしている。	職員の栄養士が変化に富む献立を作成し、利用者はできる範囲で食事の準備や後片づけをしている。収穫したニンジンでホットケーキを作るなど、職員と一緒に和気あいあいと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や状態に合わせて栄養士と連携を取り食事のメニューや量などに考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、後は口腔ケアを行っている。必要に応じて口腔内マッサージや嚥下体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しそれぞれに応じた声掛けに留意している又、負担を与えない誘導に取り組んでいる。	一人ひとりの排泄習慣を把握してさりげなく声かけや誘導をしている。失敗した時も極力本人が傷つかないように、職員間で連携して迅速に対応するなど排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分量に気を配り運動を働きかける事で自然な排便が出来る様取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や状況に合わせて安全面に留意しながら入浴出来る様に努めている。	大浴場は週1～2回の入浴日を設定しているが、ユニットにあるリフト入浴は利用者の希望により、いつでも入浴できる。疾患のある利用者は完治するまで、清拭や足浴で対応したり、1日2回のリンパマッサージを施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状況を把握したうえで、出来るだけ日中の活動を充実するよう取り組み気の向くままに過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の確認が出来る様処方箋を個別にファイルしている。又状態の変化があれば看護師に報告し対応するよう連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味を持ったものを取り入れながら得意分野でそれぞれの力を発揮してもらい趣味では持続できるよう支援をしている。		

グループホーム平里の家(さくらユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には本人の体調に合わせて散歩したり、本人の要望があればご家族の協力を得て外出の支援をしている。	天気の良い日は散歩や家庭菜園の手入れなどの外出支援をしている。散歩が困難な利用者も、車いすで出入りできる大きなウッドデッキでおやつ・お茶を取りながら日光浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意をもらい基本的には事務所で預かり、必要に応じてお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人の方への電話は希望があった場合や電話があった時などはお話しして頂く。手紙も交流が途切れないよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に伴う飾り付けを行い、室温にも気を配りながら心地よく快適に過ごせる様工夫している。	玄関を中央に両サイドに居室のある平屋造りの事業所である。食堂兼リビングは広く、ゲームや職員の寸劇(水戸黄門)をゆったりと楽しむことができる。利用者が折り紙で作った桜の花が季節感を出して、居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では家具の配置に留意し、個別に過ごせるスペースも確保している、そこでは各自趣味を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を使用していただき安全に配慮し安心して心地よい居室作りに取り組んでいる。	居室は在宅当時の仏壇や家具、日用品が持ち込まれ、家族の写真や塗り絵などを飾り、一人ひとりが居心地良く暮らす工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて安全性を考慮した環境整備に努めている。		